

低炭素社会の実現に向けて



専務執行役員
橋本 正一

地球温暖化によるさまざまな問題が国際的に議論され始めてすでに20年あまりが過ぎています。その間、CO₂を中心とする温室効果ガスの排出低減を目的として世界中の国々が議論を重ね、昨年にはCOP21*において2020年以降の削減のための国際的枠組みを規定する「パリ協定」が採択されました。ここでは産業革命以前からの気温上昇を2℃以内にする目標に加え、これを1.5℃以内とする努力目標が確認されました。発効が確実視される中ですべての国が目標達成の対策を実施することが期待されます。このように国際的な削減に向けた活動が進む中、一方で近年、異常気象によるさまざまな災害が各地で起こり深刻な被害が報告されています。日本でも過去に例のないレベルの集中豪雨による河川氾濫や土砂崩れなどの深刻な災害が起こり国民の安全がおびやかされる事態に至っています。また、身近な体験として狭い地域で起きる激しいゲリラ豪雨などもその影響ではないかと懸念しています。これらは単なる自然災害で済ませることはできず、地球規模の対策の実行が待ったなしの状態であることを気づかせてくれます。

豊田合成は低炭素化社会の実現に向けて今年2月、TG2050環境チャレンジと第6次環境取組みプランを公表し、事業活動での意欲的なCO₂削減目標に合わせ環境負荷低減、車両の燃費向上や環境対応車に貢献する製品開発の推進などを宣言しました。この中で製品開発による貢献は、CO₂削減に寄与すべき運輸部門の約9割がバス、トラックを含む自動車による排出である現状からその果たすべき使命は大きいといわざるを得ません。現在、ガソリン、ディーゼルなどの内燃機関による自動車の燃費向上を実現する開発と、PHV、EV、燃料電池車などの環境対応車の開発の2本柱での開発が進められています。車両の燃費改善では動力系本体の効率化に加え軽量化が重要な役割を占めます。豊田合成は樹脂、ゴムの製品適用を開発のDNAとして持ち、車の軽量化の実現で貢献できる幅広い領域を持っています。これまでも小型、軽量化の製品開発に加え、金属部品の樹脂化などの開発を積極的に進めてきました。今回の特集ではその製品開発の現状をご紹介します。豊田合成が進める将来の更なる開発に向けてご理解を深めていただくことを期待しています。

今回の特集にあたり、トヨタ自動車(株)先進技術開発カンパニー常務理事の深澤和広様から水素社会実現と燃料電池車の展開についてご寄稿いただきました。是非ご一読いただき、私達が果たすべき貢献について考える機会としていただければと思います。

* COP：国連気候変動枠組条約（UNFCCC）の締結国会議の略称。参加国は195カ国と欧州連合（EU）